

OSSはオワコンか

～NPO法人OSSAJの軌跡、ってというか自分がオワコンだろ的な～

2015/02/27

OSC Tokyo/Spring

OSSAJ/橋本明彦

自己紹介

- 特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会から、やってきました。
- <http://www.ossaj.org/>
- Open Source Software Association of Japan です。間違っても、最後は Nippon ではありません。

なぜ「OSSはオワコンか」か

- 今から約10年前、OSSを推進する仕事をしていました。
- OSSそのものをキーワードにして、IT産業振興を目指していました。
- 2015年4月～2017年9月、IPAに出向
- 2016年1月～OSSセンターに所属
- 最近のOSSの状況は、どうも、自分がOSS振興政策の手先だった頃と、雰囲気が違う気がする。

国のOSS支援事業

- オープンソフトウェア活用基盤整備事業
- 独立行政法人情報処理推進機構(IPA,平成16年より独法)
- 平成15年度～平成17年度

- 1)オープンソースソフトウェアを活用するソフトウェア開発者の情報交換・交流への支援。
- 2)電子政府での活用も視野に入れたオープンソースソフトウェアで構築されたシステムの実証、情報家電の開発に適用できるような基盤的オープンソフトウェアを構築するための技術開発等の実施。
- 3)新たに必要となる規格の標準化団体への提案や、開発成果のオープンソフトウェアとしての公開・データベース化
- 4)オープンソースソフトウェアのライセンスに関する研究

- 目標(目指す結果、効果);
- オープンソースソフトウェアの活用を推進するコミュニティ等にソフトウェア開発や開発環境整備等の支援を行うことにより、安全でかつ革新的なソフトウェアの開発を推進するとともに、我が国ソフトウェアの競争力の底上げを図り、また、政府を含めたユーザーの選択肢の拡大を図る。
- 指標;
- a. オープンソースソフトウェアの開発件数
- b. 開発ツール等の開発環境の整備件数

国のOSS支援事業

- その後2度継続
- オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業
- オープンソフトウェア利用促進事業
- 平成15年度～24年度の10年間しめて、71億円
- すべて、2012年までに手仕舞い。
- IPAの担当部署は、看板を架け替えた。

- 3段階目では、「オープンな標準」が強調されている。
- http://www8.cao.go.jp/cstp/project/bunyabetu2006/jyoho/6kai/siry_o9-7.pdf

施策名： オープンソフトウェア利用促進事業 【経済産業省】

平成20年度対象予算： 560百万円
全体予算： 560百万円
(平成19年度対象予算： 420百万円*)
*全体予算： 703百万円

実施期間： 平成15～24年度
(予算総額： 7,100百万円)

○「情報システムに係る政府調達基本方針」には、オープンな標準に基づく調達および分割調達が謳われ、ITシステムの調達コスト削減およびITマーケットにおける健全な競争環境の構築を図ろうとしている。

○しかしオープンな標準および分割調達の導入は、一部民間にとっては独占的で優位な立場の放棄を意味することから初期における自発的取組は期待できず、官主導により方向付けを行うことが不可欠。

ユーザサイトのオープンソフト利用促進

オープンな標準の普及

・技術参照モデル(TRM)の策定 等

OSSサポートに係る人材育成

・サポート側、調達側双方向への人材育成カリキュラム作成 等

オープンスタンダード導入のための関連開発

・政府調達に不可欠な信頼性向上、互換性確保技術の開発
・構築されたソフトはOSSモジュールとして公開

普及啓蒙

・導入事例収集・提供、法的課題に関する調査、ガイドブック等作成、セミナー等開催

ユーザのニーズに応える開発側の環境整備

OSSコミュニティの活性化

・高度OSS開発人材育成のため、我が国発のOSSプラットフォーム(例えばRuby等)を支援

- IPA職員として自分が関係したもの・・・というか、居合わせたもの

ソフトウェア開発支援

- 公募により提案を集める。
- 後々、テーマをIPAから提示するようになった。
- 出来たものをOSSとして公開する、という約束のもと、開発事業を国からの委託として実施。
- 日本版バイドール法を利用。初期投資に国の費用を投下するも、国は、その後のメンテと費用の心配をしなくてよい。

OSSセンターの設立

- 競争領域はベンダー間でやってください。
- 協調領域は国の支援を。性能評価、組み合わせ検証、事例公開・・・
- 国はOSSを支援していますよ、というメッセージ

性能評価

- 3階層Webアプリケーション、すべてOSSで構成し、例題も公開。
- 国内ベンダーが共同して実施。
- 人的交流、人材育成の側面もあった。

自治体OSS導入実証

- 企業のOSS採用は難しいだろうから、首長の一喝で自治体に。
- デスクトップから始めたら、問題は基幹系にあった。
- 自治体にオープンソースソフトウェアを導入しよう!ーデスクトップ編
- <http://www.amazon.co.jp/dp/4839929645>
- 自治体にオープンソースソフトウェアを導入しよう!ーシステム基盤編
- <http://www.amazon.co.jp/dp/4274501663>
- 自治体にオープンソースソフトウェアを導入しよう -基幹システム編
- <http://www.amazon.co.jp/dp/4839929645>



国際交流

- 北東アジアOSS推進フォーラム (←行事)
- CJK (中国、日本、韓国)
- 日本OSS推進フォーラム (←組織)
- <http://ossforum.jp/>
- 北東アジアの、日本側の窓口として、スタートした。

情報提供

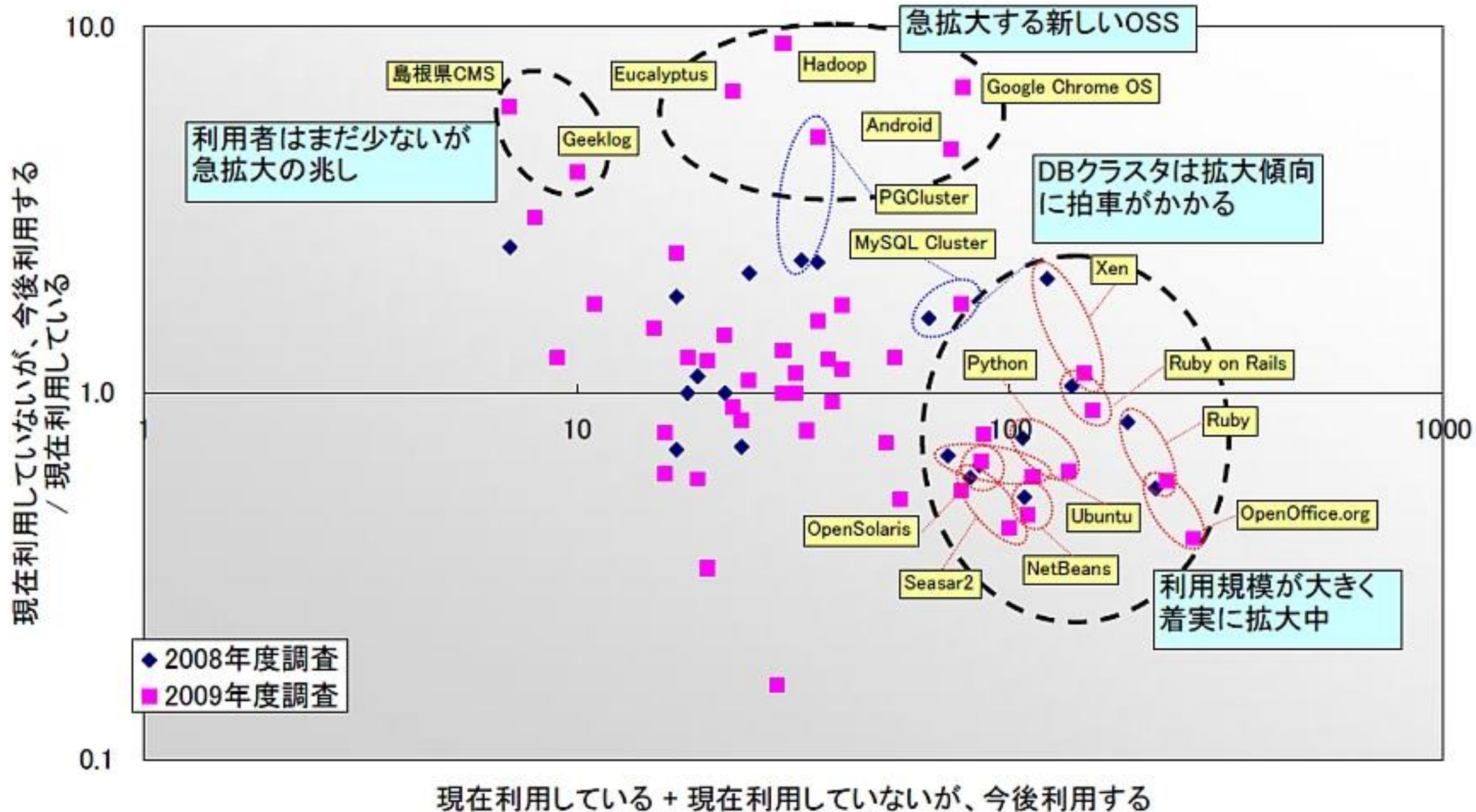
- OSS iPedia

これらはあまり関係してなかった

- Open ラボ
- いままでいうクラウドのようなもの
- OSS人材育成
- https://jinzaiipedia.ipa.go.jp/it_platform/education/oss
- IPAフォント
- <http://ipafont.ipa.go.jp/>

OSS活用ビジネス実態調査

- 第1回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査
- https://www.ipa.go.jp/software/open/oss/sc/seika_0608.html
- 第2回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査
- http://www.ipa.go.jp/software/open/oss/sc/seika_0803.html
- 第3回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査
- https://www.ipa.go.jp/software/open/oss/sc/seika_1004.html
- <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/Research/20100506/347731/zu4-14.jpg>



OSS活用ビジネス実態調査

- IPAが、2007年度～2009年度に実施。
- OSSビジネスは成長する、というメッセージ
- あとが、続いていない・・・

- ちなみに、いまどきのOSSに関するアンケートは・・・
- いやいや、お金持ち向きには、ちゃんと、実施されていました。
- Gartnerも、やっています。
- これらは、お金を出さないと見ることができないし、見ても、よそでしゃべることができません・・・

IDC

- 国内オープンソースソフトウェア利用実態調査結果を発表
- <http://www.idcjapan.co.jp/Press/Current/20140108Apr.html>
- 企業におけるOSSの導入率は32%、前回調査から6.7ポイント上昇
- OSSの活用に対して積極的な企業は、ビジネスも成長している
- OSS RDBMSの使用傾向に違い。一般ユーザー企業ではMySQL、サービスプロバイダーではPostgreSQLでの使用が多い
- Hadoopの使用目的はバッチ、ログの解析、ストレージ、検索／インデックス作成など多岐にわたる
- おや、もう1年たっていますが、今年はやってないのかも・・・

OSSはどこから来たか

- 本当にオワコンなのかどうか、その前に、OSSはどこから来たのでしょうか

Free Software Foundation

- <https://www.fsf.org/>
- フリーソフトウェア財団とは、1985年10月4日、リチャード・ストールマンにより創設された非営利団体である。(Wikipedia)
- ソフトウェアの4つの自由
- <https://www.gnu.org/philosophy/free-sw.ja.html>

ソフトウェアの4つの自由

- あるプログラムが自由ソフトウェアであるとは、そのプログラムの利用者が、以下の4つの必須の自由を有するときです：
- (第零の自由)いかなる目的に対しても、プログラムを望むままに実行する自由。
- (第一の自由)プログラムがどのように動作しているか研究し、必要に応じて改造する自由。
- ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。
- (第二の自由)身近な人を助けられるよう、コピーを再配布する自由。
- (第三の自由)改変した版を他に配布する自由。
- これにより、変更がコミュニティ全体にとって利益となる機会を提供できます。ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。

- これは、前提があります。
- あなたが、実行する権利を持っているバイナリープログラムを持っているとき、そのバイナリープログラムに対しての、「自由」です。

Open Source Initiative

- <http://opensource.org/>
- Open Source Initiativeは、オープンソースソフトウェアを促進することを目的とする組織である。1998年2月にブルース・ペレンズとエリック・レイモンドにより設立される。(Wikipedia)
- The Open Source Definition
- <http://opensource.org/osd>
- http://www.opensource.jp/osd/osd-japanese_plain.html

- 1. 再頒布の自由
- 2. ソースコード
- 3. 派生ソフトウェア
- 4. 作者のソースコードの完全性(integrity)
- 5. 個人やグループに対する差別の禁止
- 6. 利用する分野(fields of endeavor)に対する差別の禁止
- 7. ライセンスの分配(distribution)
- 8. 特定製品でのみ有効なライセンスの禁止
- 9. 他のソフトウェアを制限するライセンスの禁止
- 10. ライセンスは技術中立的でなければならない

OSSの先駆的形態

- パブリックドメイン
- アメリカ合衆国職員の著作物
- ベルヌ条約の内国民対応によれば、日本国内には通用しない。
(Wikipedia)
- たとえば、オークリッジ研究所
- PVMの開発元。
- PVM (Parallel Virtual Machine)
- <http://www.csm.ornl.gov/pvm/>
- PVMには、BSDライクな著作権表記がある。

OSSの先駆的形態

- The Netlib
- <http://www.netlib.org/>
- LINPACK、これが、不明だ。
- ファイルを見ても、ライセンス表記がない。
- 実は、SIAMからユーザガイドの書籍が出ていて、それについては、SIAMの著作権があるらしい。で、そこにコードも印刷されているの？
- だいたい、netlibは、著作権的にはめっちゃくちゃらしい。(Wikipedia)

日本の政府が関係したオープンソース

- IPAのソフトウェア開発支援事業
- 支援を受けた事業者が自分でOSSとして公開する。
- 出来たものをOSSとして公開する、という約束のもと、開発事業を国からの委託として実施。
- 日本版バイドール法を利用。初期投資に国の費用を投下するも、国は、その後のメンテと費用の心配をしなくてよい。

OSSのようで、OSSでないものもあります。

- 財団法人地方自治情報センター(LASDEC)
- 現在の地方公共団体情報システム機構(J-LIS)
- 地方公共団体業務用プログラムライブラリ
- <https://www.j-lis.go.jp/lasdec-archive/cms/9,30378,76.html>
- 共同アウトソーシング事業
- <https://www.j-lis.go.jp/lasdec-archive/cms/9,30386,76.html>
- LASDECのものは、自治体は無償で入手できるが、OSSではない。

- 被災者支援システム
- FAQに「オープンソースですので、自由にカスタマイズしていただけるようになっています。」と書かれている。
- が、利用申請とか、インストールキーとか、必要。

- TOPPERS
- <https://www.toppers.jp/>
- NPO法人 TOPPERS プロジェクト
- 内閣府「第12回(平成26年度)産学官連携功労者表彰」で、科学技術政策担当大臣賞を受賞。
- 受賞理由は「長年に渡るオープンソースのリアルタイムOSプロジェクト / オープンソースの組込みリアルタイムOSの開発・普及」
- いやいや、独自ライセンスの「レポートウェア」です。
- TOPPERSの著作権は、NPO法人 TOPPERS プロジェクトが所持しているわけではない。

国とOSS

- 内閣府
- 情報通信分野推進戦略プロジェクトチーム
- 第3回会合(2006/2/14)
- <http://www8.cao.go.jp/cstp/project/bunyabetu/jyoho/>
- 「次世代の市場を作り出す新サービス創出に資するオープンソースソフトウェア」というフレーズが資料に出てくる。
- おや、2006年だ。古い話。

歴史の話「42」

- 2003年の出来事
- 発端は・・・
- エンタープライズ：政府が捉えるLinuxへの取り組み、LinuxWorld Expoで経済産業省・久米氏が語る
- <http://www.itmedia.co.jp/enterprise/0305/22/eptn07.html>

- 「さらに深刻なのは、OSと同じくオープンソース界においても海外に依存している点であり、日本で開発方針でリーダーシップを取れるケースが極めて少ないことだ。比較的国内からの働きかけの多いFreeBSDにおいても、わずか12%程度に止まっている。日本での方針が、即、直接のソースコードに加えられる決定権が持たれていない。」

- 「久米氏による調べでは、日本発のオープンソースはわずか42件。これは非常に少ない件数だ。」
- 波紋を呼びました。
- ☆オープンソース政策についての討論会のご報告☆
- <http://www.rieti.go.jp/users/it/policy/>

歴史の話「コードを書かない」

- 2005年の出来事
- 発端は・・・
- CodeFest 2005 JAPAN
- http://blogs.da-cha.jp/index.php/momokuri/codefest_2005_japan
- 「人材育成とか、日本発のOSSとか、コードも書かない人に言われたくはない。」

- 404 Blog Not Found:コード読みのコード知らず
- <http://blog.livedoor.jp/dankogai/archives/21958446.html>
- 「...おい、何生意気いってんだよ。コードだけでOSSの世界が回ると
思ってるのか？「コードも書かない人」だと？だったら言ってやる。必
要経費も出さない奴にOSSがなんだかいわれたかねーよ。コードが
書けずとも、コーダーに理解を示してくれる貴重な人たちの手を払い
のけるようなことを言ってる奴にフリーソフトウェアがなんたるかいわ
れたかねーよ。」

- 私見ですが
- 「42」や「コードを書かない」などの、当時の関連するページをみると、なんと、今日も同じ問題を抱えているままだ、ということが分かります。
- 何一つとして、解決していない、か、問題の焦点がずれていってしまっただけ。

- などなど、昔を懐かしんで、ああ、オワコンか、と感じていたわけですが、あらためて、気を付けてみると……

OSSへの向い風(?)は無かった(?)という話

- 山形県、実はやめたわけではなかった。
- 山形県のMicrosoft Office再評価は「OepnOffice.orgからの逆戻り」ではない
- <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/Watcher/20131023/513262/>
- ミュンヘン市、実はやめたわけではなかった。
- 「Linux移行完了を受けて調査しているだけ」--ミュンヘン市、Windows回帰報道にコメント
- <http://japan.zdnet.com/os/analysis/35053843/>

最近の追い風事例

- 「システムインテグレーション崩壊～これからSierはどう生き残れば
いいか?」
- 斎藤 昌義 (著)
- 技術評論社/ISBN-13:978-4774165226
- 第5章 オープンソースソフトウェアを活用する
- 伸びないIT市場の中で突出した成長が見込まれる分野
- なぜ, OSSが支持を集めているのか
- OSSを利用するメリットとは
- Consume (消費) から Contribute (貢献) へ

最近の追い風事例

- ゾンビOSSが危ない StrutsとOpenSSLの教訓
- 日経コンピュータ 2014 12.11 号
- OSSにも寿命がある
- OSSがゾンビ化する事情
- ゾンビ化を避ける心得

最近の追い風事例

- OSSに見るITの最新動向
- 情報処理 Vol.56 No.3
- 0. 編集にあたって
- 1. OSSの進化 -コミュニティ開発のもたらすもの-
- 2. OSS/OpenStackに見るクラウド基盤技術
- 3. 大規模データ解析を支えるOSS技術
- 4. Software Defined Networking(SDN)を支えるOSS技術
- 5. 基幹システムを実現するLinux技術

最近の事例

- 平成25年度「産業技術実用化開発事業費補助金(ソフトウェア制御型クラウドシステム技術開発プロジェクト)」に係る交付先の採択結果について
- <http://www.meti.go.jp/information/publicoffer/saitaku/s130726002.html>
- 平成25年7月26日
- クラウドコンピューティング環境の信頼性確保
- クラウドコンピューティング環境の構築、運用に係る可用性確保
- クラウドコンピューティング環境における消費電力削減

- 成果の継続的な進化を促すとともに、成果を広く普及させ、誰もが利活用を可能とするよう技術のオープン化を前提とした取組を実施するものとしします。
- 採択事業者
- 1. TIS株式会社
- 2. 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 3. 株式会社インターネットイニシアティブ

最近の事例

- 平成26年度わが国経済社会の情報化・サービス化に係る基盤整備(クラウドコンピューティング時代におけるオープンソースソフトウェアの活用に関する調査事業)
- 実施計画書(仕様書)
- 平成26年10月20日
- 我が国及び世界において、クラウドコンピューティングにおいて、オープンソースソフトウェアがどのような形で使われており、さらに今後どのような技術で用いられつつあるかを調査する。
- 本日、午後、この事業の一環としてのシンポジウムが、開催されます。

オープンソースカンファレンス2015 Tokyo/Spring 併設イベント

シンポジウム

クラウド×OSS～“攻めのIT”への転換

～「クラウド時代のOSS、が進むべき方向の提言発信へ～」

2015年2月27日(金)

13:00～18:00

会場：明星大学 日野キャンパス
26号館

参加費無料
[定員] 200名



- おや、かなり、イケてますね。

オワコン、とは、どういうことか

- 中原の「形骸化」6類型
- 「アタタタタタタタ、アターツ！ おまえは、もう「形骸化」している!?: 『手法のオワコン化』に潜む6つのパターン!?’
- http://www.nakahara-lab.net/2014/04/post_2206.html
- 中原淳 東京大学 大学総合教育研究センター 准教授、2014年4月14日
- 以下、引用、というには、ほぼ全文ですが・・・

中原の「形骸化」6類型

- ムーブメント形成の失敗
- 資格付与における失敗
- 人材育成における失敗
- 概念定義の失敗
- 外部環境への変化拒絶による失敗
- カリスマ化による失敗

①ムーブメント形成の失敗

- ある特定の「手法」がブームになる手前の失敗です。
- ある特定の「手法」に興味をもち実践する人々の間に生じる「大同小異の差（認識の差）」が乗り越えられず、関係者内部のゆるやかなつながりや協力関係が生まれず（場合によっては仲間割れする）、ムーブメント自体をつくれないうちから生じます。

②資格付与における失敗

- ある特定の「手法」に関し「資格」などを設けた場合に起こります。本来、資格を与えてはいけない人に、何の質保証を行うことなく、大量資格証明を行ってしまい（選抜と資格付与の仕組みが機能しない）、資格の価値がインフレーションをおこし、その領域自体の経済的価値が地盤沈下することによって起こります。

③ 人材育成における失敗

- ある特定の「手法」の普及のスピードに、「手法」を実践・指導する側の「人材育成」が追いつかず、結果として、「品質劣化をおこした手法」が普及してしまうこと、ひいては、手法自体にレピュテーションリスクが発生し(悪い評判がついちゃうってことです)、地盤沈下していくことによって起こります。

④概念定義の失敗

- ある特定の「手法」の概念定義・手続きがゆるく定められ、かつ、普及スピードがはやい場合、おおよそ元々存在していた「手法」とは思想的背景が異なる「亜種」が複数生まれます。複数ある「亜種」のひとつに問題がある場合、もともとの「手法」そのものの価値が疑問視され、普及しないことがあります。

⑤外部環境への変化拒絶による失敗

- ある特定の「手法」自体の教条化・固定化が進み、それを金科玉条のように守ることが「自己目的化」する。しかし、外部環境は変化し、手法自体がそれへの「適応」をはたせないことによって、徐々に衰退していくことがあります。

⑥カリスマ化による失敗

- ある特定の「手法」の創設者・古参者が「カリスマ化」ないしは「サロン化」すると新参者の参入が減るか、ないしは多様性が失われます。新規参入と多様性劣化は、徐々に創設者・古参者の現実認識を曇らせていきます。次第に外部環境への環境適応ができなくなり、徐々に衰退していきます。

OSSの現状

- OSSは遍在している。(←偏在ではない)
- OSSプロダクトのライフサイクルが変容してきている。
- OSSを使ったシステムのライフサイクルが変容してきている。

OSSの遍在化

- OSSはOSやDB、ネットワーク関係のミドルウェアが多い、というわけではなくなった。
- OSSのアプリはオフィスソフトやブラウザのような汎用的なものに限られる、というわけではなくなった。
- OSS、と言わないだけで、OSSは、いたるところで、たっぷり使っている。

OSSの遍在化

- PCを買った時から、LinuxやOpenOfficeが入っている、というかたちでのOSSの普及、ではない。
- インターネットを介したサービスが主流になって、ネットの向こうにあるソフトウェアが、何なのか、という問題。
- ハードウェアを売るためのOSSではなく、サービス構築のためのOSSに。

OSSプロダクトのライフサイクル

- OSSプロダクトは、いつ、どのようなきっかけで発生し、どのような経過で成長していくのか。
- 新しい技術の、最初の実装、有効なリファレンス実装、有力な実用品、が、OSSである、という事例。
- 商用プロダクトの代替品ではない。
- 商用技術のキャッチアップではない。
- そもそも、新しいことに手を付けたときから、OSSだった、という事例。
- コマーシャルOSSというものがある。OSSのベンダーがいる。
- OSSのコミュニティと、OSSベンダーとの関係に、いろいろ問題がある場合があるようだ。

OSSを使ったシステムのライフサイクル

- 大規模ソフトウェア開発のプロセスの中で、OSSを「把握」していたが、どうも、今は状況が違うらしい。
- 中小ITビジネスの中で、商材としてOSSを「把握」していたが、どうも、今は状況が違うらしい。
- オープンソースを語っていたときに想定されていたステークホルダーの、顔ぶれが変わってしまったのだろうか。
- 共通フレーム 2013
- <http://www.ipa.go.jp/sec/publish/tn12-006.html>



OSSがオワコンな気配

- どうも、自分がOSS振興政策の手先だった頃と、雰囲気が違う気がする。
- 自分が、OSSAJ(の創立時のころのメンバーの方々)が、思い描いていたオープンソースソフトウェアのムーブメントと、今の状況に、ギャップがあるような気がする。

- ギャップの正体は、なんなのだろう。
- オープンソースビジネスモデルの変革を迫られている。
- いつ、どのタイミングで、儲ける/儲けない、か。
- SIビジネスにけるOSSの位置づけは旧来から言われているが、SIビジネスが岐路にさしかかっているだけに、その重要度が増している。

- 個々のOSSプロダクトにも、「人材育成における失敗」「外部環境への変化拒絶による失敗」「カリスマ化による失敗」のような状況はあるだろう。
- OSS全体、というか、OSSという言葉で物事を捉えよう、とする立場については、「ムーブメント形成の失敗」「概念定義の失敗」は、あるかもしれない。
- じゃあ、「資格付与における失敗」は？

- OSSAJは、取り組んでいます。

OSSAJのセミナー、シンポジウム

- こちらに、録画、資料があります
- OSSAJ フォーラム/セミナーの記録
- <http://www.ossaj.org/seminar/>

OSSAJとオープンソースビジネスモデル

- OSSAJ ミニセミナー(2014年度第3回目)
- 「大規模開発におけるオープンソースの活用-- ノンプログラミングを目指したオープンソースのご紹介 --」

- 新潟から世界へ --- トキとオープンソースで、お・も・て・な・し(2014年2月14日)
- 講演1「新潟からオープンソースを発信しています - Niigata Linux, NPO総合管理システム -」
- 講演2「福岡からオープンソースを発信しています - コーポレートサイトにちょうどいいbaserCMS -」
- 講演3「川崎からオープンソースを発信しています - Web勤怠管理・人事給与システム MosP -」
- 講演4「長岡からオープンソースを発信しています - eコミの開発と活用 -」

OSSAJとオープンソースビジネスモデル

- OSSの10年間を振り返る(2013年5月30日)
- 講演1「MySQLとオープンソースビジネスの10年、そして未来へ」
- 講演2「私がオープンソースCMS『Joruri』の分岐バージョンZOMEKIを作った理由」
- OSS 新時代 --- ソーシャルビジネスとOSS(2011年2月15日)
- 講演1:クラウドコンピューティングとOSS
- 講演2:CSR からソーシャルビジネスまで、企業が今意識すべきもの
- 講演3:ソーシャルビジネスとしてのオープンソース

OSSAJとオープンソースビジネスモデル

- OSS今後の動向を探る(2010年5月27日)
 - 基調講演:クラウド時代のOSSとプロプライエタリ製品の共存と競合
 - 講演1:仮想化とOSS
 - 講演2:企業情報システムの明日を左右するもの --- クラウドとBABOK ---
-
- 日本発のオープンソース・プロジェクト(2010年2月16日)
 - 講演1:NetCommons 情報共有基盤システム --- システムをユーザの手に
 - 講演2: MosP 人事・給与・勤怠システム --- 利用されなくては MosP は育たない
 - 講演3:オープンソースプロジェクトを立ち上げ事業に活かそう --- OpenPNE プロジェクトの事例から学ぶ

OSSAJとオープンソースビジネスモデル

- OSS によるビジネス、OSS のビジネスアプリケーション(2008年5月27日)
- セミナー1 : OSS 人事系業務アプリケーション MosP と OSS によるビジネス戦略
- セミナー2 : オープンソース BPMS (Business Process Management System) 製品 と OSS ベンダーのビジネスモデル
- OSSビジネス最前線(2008年1月24日)
- 講演1 : オープンソース・ビジネスの変遷と今後
- 講演2 : LinuxビジネスからOSSビジネスへの変革

OSSAJとフリーソフトウェア運動

- OSSの10年間を振り返る(2013年5月30日)
- 基調講演「それでも、自由なコンピューティングを希求する」
- OSSを活用したスモールビジネスでのライセンスとの付き合い方 -- OSSライセンスの勘所--(2012年9月28日)
- GPLv3 解説ミニセミナー(2007年8月31日)
- 「それでも、自由なコンピューティングを希求する」の録画はありません。
- 現在普及している動画関連技術には、自由なコンピューティングじゃないものが含まれているので。

出前もやっています

- OSC Fukuoka 2012
- 「ソフトウェア開発におけるオープンソースの位置づけとその変化、これから」
- 講師の旅費を、OSSAJが負担しました。

本当にオワコンか

- 使う分には構いませんが、知っていてほしいことも、あります。
- NCSA Mosaic や、Netscape Navigator、ひいては、X Window 11 とかを、知らずに、意識せずに、GNOME とか KDE とか Firefox とか、Chrome とか、使っている。
- GCC
- というよりも、常識になり、常態化してしまい、そこをあらためて強調するような段階ではなくなってきた。
- 概念として、かつ、実態として終わってしまったわけではない。

今、OSSについて考えるべきこと

- OSSに接しつつも、忘れてはいけないフリーソフトウェアの話
- OSSとわざわざ言わなくても済んでしまうからといって、それを言わなくなってしまうと、OSSのビジネスモデルを意識しなくなるだけでなく、その前にあったはずのFree Software の意識からも、遠ざかってしまう危険性
- オワコン、というよりも、深いところでは、まだ始まったばかり
- みなさんの悩みは、ひとりだけのものではありません。
- 30年以上も前から、繰り返され拡散されつづけてきたものです。

おしまい

- 提供は、特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会でした。
- 特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会は、会費無料の一般会員を募集しています。
- 年会費を払う正会員、企業を対象とした賛助会員の制度もありますが、まずは、無料の一般会員になってみたら如何でしょう。
- <http://www.ossaj.org/>
- Open Source Software Association of Japan です。間違っても、最後は Nippon ではありません。

蛇足

- 個人的には気になっているのだけれど今回は触れなかったこと
- OSSの品質
- Qualipso , OpenHab , CoverityScan: ...
- 品質を決める要素、コミュニティ、成熟度、不具合対応のスキーム、ロードマップと優先順位、知的財産権に対する姿勢、セキュリティに対する姿勢、...

蛇足

- 国、地方自治体とOSS
- 教育とOSS
- OSS人材育成、ひいては、IT人材育成
- 教育現場におけるOSS、校務用、授業用、ソフトウェアそのものが教材である場合、など
- 教育の情報化、教科「情報」教育、情報教育

蛇足

- 歴史と将来
- オープンソース第●世代、というまとめ
- オープンソース関係者第●世代、というまとめ
- 若返り問題、世代間格差
- 「ライセンス」問題、国内法制度との整合性
- オープンデータは、国主導?
- オープンストリートマップは、国土地理院とか、前のめりらしい!?

蛇足

- いろいろと、お世話になっております。
- オープンソースカンファレンス.Government 実行委員
- 福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議 顧問
- 一般財団法人Rubyアソシエーション 理事
- OSSコンソーシアム 賛助会員(個人)
- 日本OSS推進フォーラム 個人会員 (アプリケーション部会所属)
- ICTイノベーションミッションナリ(No.58)